

学校規模適正化・適正配置に関する地域説明会(会議録)

1 日 時 令和7年7月10日(木)、18:30~19:50

2 開催場所 栗林小学校 視聴覚室

3 参加者 23名

4 事務局

【教育委員会事務局】

高橋勝教育長、川崎浩二教育部長、笹村聡一総務課長

佐々木薫学校規模適正化推進室課長、岩渕勝也学校教育課長

鈴木隆光学校教育課主幹、川崎克総務課長補佐

谷藤太郎学校規模適正化推進室長補佐

【市長部局】

中村達也総務企画部長、小山田俊一産業振興部長、猪又博史危機管理監

村山明子保健福祉部次長、山崎強文化スポーツ課長、佐々木敏之水道事業所長

5 経 過

(1)開会

(2)教育長あいさつ

【高橋教育長】

栗林地域の皆様には、小学校へのいろんな支援・協力をいただいていることに本当に感謝申し上げます。栗林小学校は地域と学校が一体となった教育が行われている学校ということで、皆様の協力を大変ありがたいと思っていますところです。どうぞ、今日の説明会、よろしくお願いいたします。(以下、略)

(3)職員紹介

(4)説明

(教育委員会事務局から説明)

(5)意見交換(質疑応答)

【高橋教育長】

今回は栗林小学校が鶉住居小学校と統合ということを示しております。さらに中学校は、

今後、小中一貫教育のことも考えていきたい、とお示しましたので、栗林地域としてどうかというところで質問、ご意見があればと思います。

もう一つは、この地区のことだけではなくて、市全体としてこういうふうに進めていきますということも示させていただきましたので、その部分についてもご質問、ご意見があれば、また、こういうところが不安であるとか、学校統合に付随して様々なことが出てくるといいますので、遠慮なくお聞かせいただきたいと思います。

【参加者】

現在学校統合がこういう話になっているということは、少し前から耳には入ってましたが、ここまで話が進んでいるのだなと思って、いろいろ考えながら聞いていました。子どもたちを優先した教育をしてあげたいということと、いずれこの話はPTAや地域とかと検討しながら、そういう場を設けてやっていきます、学童についてもいろいろ考えていきます。そういった段階にも入ってきているのかなと思って感慨深いものがあります。教育委員会、市役所の考えはそれなりに理解はします。ただ、小規模なりにあった素晴らしいものが今後に生かされる施策であってほしい。

一方で、廃校になった学校の実態を見るとすごく残念な結果になっています。地域の人たちがどれだけ残念に思っているのか。地元と相談しながら活用していきたいと言われていましたけれども、ここは避難所という位置づけにもなっています。なんとか、先生方はいなくても、地域として活用できるようなものが必要なのではないかと思います。そういったところでのフォローをお願いします。

児童生徒数のシミュレーションはよくわかりましたが、先生方の数はどのように統廃合によって変わってくるのか。市の教育はどのように変わってくるのか。総合的に釜石のプラスになるところは何なのかをお聞かせいただきたいと思います。

【教育委員会事務局】

PTA活動に関わっていて、栗林小の活動を見ると、例えば、夏場の草刈り、環境整備という、ほとんどのご家庭の世帯の親御さんが参加して、町内総出でやられていて、今日初めて訪れたうちの職員も言いましたが、学校の中もですが、周りの環境整備が本当に素晴らしい学校だなと思っていました。

統合にあたっては、学校の良さ、取組、地域との繋がりをなるべく生かしていこうということで、できれば統合前にも鶴住居小と栗林小の交流などに取り組みたいと考えております。

廃校の実態ということで、市内でも何校か統廃合後に残っている学校があります。基本的に何の活用方針もなければ解体して更地ということになりますが、栗林小は、体育館は地震・津波の際の拠点避難所、洪水・土砂気象災害の場合は校舎の2階以上ということで、地域の防災の拠点となっております。今日、市長部局の職員も来ていますが、市役所内で部局横断的な検討委員会を立ち上げました。そういった活用について話し合いたいと考え

ております。あとは、栗林小以外でも使わなくなる公共施設も出てきます。大きなもので言えば、今、市役所の本庁舎を天神町に建てており、来年の3月に完成して引っ越せば、今の本庁舎や第2庁舎、第3庁舎が入ってくることになります。そういった公共施設を市内全体でどう位置付けて、どう利活用していくのかというの、地域の皆様と話し合いたいと考えております。

あとは、先生方のシミュレーションについては、直接質問は受けていませんが、前段でPTA役員の皆さんと意見交換をしました。子どもたちが鶴住居小に行って、新しい環境、新しいお友達との付き合いが出てきます。もちろん、子どもたちの心の部分にも配慮しますが、合わせて、栗林小の児童の様子をよく知る教職員の方を何人かは鶴住居小に異動、ということも配慮したいと考えております。

【高橋教育長】

教職員の配置は、学級数や児童生徒数で決まります。例えば、栗林小が鶴住居小に統合することによって鶴住居小の学級数が増えることがあれば、先生が多くなることも考えられます。今のところ児童生徒と学級数によって決まるということです。

それから、統合した時に栗林小の児童のことをよく知っている先生を鶴住居小のほうに異動してもらって、配置するというのも配慮します。また、統合した時に、加配で本来の定員の先生よりも1人多く配置しますとか、そういうこともありますので、県の教育委員会と相談したいと思います。一方、市全体として学校数が減りますので、それに伴って必要な教員数も減ってくるというところはその通りでございます。

【参加者】

私のほうから2点ほど。

令和9年に栗林小と鶴住居小の統合が計画されていますが、令和7年、8年の2年間で、鶴住居小と栗林小の交流事業等が計画されているのであれば教えていただきたいです。

もう1点、令和12年に小中一貫校という計画で、まずは最初に小学校の統合、それから準備して3年かけて小中一貫校にしていくという計画のようですけれども、その中では、小学校統合も踏まえてずっと続けていくような形なのか、統合が終わってから、小中一貫校に切り替えてやっていくのか、その辺を確認したいと思います。

【高橋教育長】

交流事業はこれからになると思います。栗林小、鶴住居小の校長先生には、統合ということももちろんありますけれども、栗林小の人数が少ないのはその通りですので、統合が無くても積極的に交流を進めてほしいとお話しているところです。突然ですみませんが、栗林小の校長先生、副校長先生もこの場におられますので、お答えできるようなことがあればお願いしたいと思います。

【高橋栗林小学校校長】

教育長から、この計画を進めるにあたって鵜住居小の校長先生と私と、そういうところも考えてほしいというお話はいただいております。具体的な交流につきましては、まず統合が正式に決まってから明確なところを考えることにはなると思っています。実際、ここ(栗林小)に赴任する前に統合を何度か経験させていただきましたが、やはり学年交流やいろんな行事での交流、そういったところは率先して推進していく形になると考えています。何よりも、子どもファーストという形は、ぜひ皆さんにもご理解いただきたいと考えております。いろんな事情があると思いますが、子どもたちにとっての1年というのは本当に大きな1年だと思えます。そういったところも皆さん、お考えいただければと考えております。私の個人的な意見になったかもしれませんが、お話をさせていただきました。よろしく願いいたします。

【高橋教育長】

小中一貫校は、まず統合の方を先に進めたいと思っています。統合にも、いろんなところで準備に時間を取られると思います。他の地域でも小中一貫教育に取り組んでいるところがありますが、状況を見ると、3年ぐらい準備期間が掛かっているようですので、準備に3年を見えています。ただ、もっと早くできるような状況になれば考えていきたいと思えますけれども、今の計画では9年度から3年間かけて準備して、12年度からという計画でいくということです。

【参加者】

もう1点。先ほど鵜住居小と栗林小を統合した時に、子どもたちのことも考えながら、知っている教職員を、鵜住居小学校に何名か配置していただくということを伺いました。非常に大事なことではないかなと思っています。統合になる時期を見据えた形で子どもたちの交流をやっていただければ、そこから友達付き合いが進んでいくのかなと思いますので、学校、教育委員会も大変だとは思いますが、子どもたちのことを大事にしていくんだということを強調して進めていただければいいのかなと思います。よろしく願いいたします。

【教育委員会事務局】

保護者の方も何名かいらっしやっているようですが、保護者の方々からも何かございませんか。不安な点や統合後に配慮してほしいことなどございましたら、ご発言よろしく願いいたします。

【参加者】

統合や中学校進学とはいえ、鵜住居小の百何人いる集団の中に、20人ちょっとの子どもたちが移動する形になるので、統合する前から交流する機会をいっぱい設けてあげたほ

うが、子どもたちもすんなり進学・進級できるのではないかなと思います。そこは、PTAも協力しながら、地域で取り組んでいければいいのかなと思います。

あと、統合には関係ないのですが、中学校の部活に関して、釜石東中学校に行けばやりたい部活がない場合、諦めるか、クラブチームに行くかという選択肢しかないけど、釜石中に行けばやりたい部活はあるといった場合、部活動という形で続けるならせめて部活動だけでも選択できないのかなという思いがあります。せっかくここまで、小学校のうちにスポーツで頑張ってきたも、自分が行く中学校にやりたい部活がなくて諦めざるを得ないというのがかわいそうかなという思いは親としてあります。やりたい部活がある学校に行きたいとか、部活動を自由に選択できる方法を検討していただければと思います。

【教育委員会事務局】

部活動については、例えば、釜石東中にはその部活がないから、その部活がある釜石中学校で活動したいというような選択肢については、活動ができるように環境を整えていく方向で今、検討・準備をしているところです。今後、部活動の地域移行もありまして、子どもたちが様々な活動を、様々な場所で、様々な方の協力を得ながら取り組んでいくという方向に向かっているということで、その環境づくりを教育委員会と関係課と連携しながら進めているところです。例えば、その活動を他の場所に行ってやるというようなことについては、可能な限り、活動ができるような環境を整えていきたいと考えています。

【教育委員会事務局】

毎年、鵜住居小と釜石東中で総合防災訓練を実施しています。多分、中学生の生徒には栗林小出身のお兄さんやお姉さんもいると思いますので、校舎は違えども、隣の校舎で、知り合いのお兄さんやお姉さんも一緒に活動しているという、ちょっとした安心感も得られるのかなと思います。あとは、勉強、学習以外のそういった交流事業で、お友達同士の結びつきが芽生えればと思います。そういったことも考えながら、触れ合いの場を見い出していきたいと思います。

【高橋教育長】

中学生にとって部活動は大きい問題だと思っています。例えば野球はどの学校も部員数が少なく、6月にあった地区中総体では試合がありませんでした。ですから、釜石東中も釜石中も全ての学校で部員数が少なく、日常的な練習がなかなかできないということもあって、今は合同部活動ということで、休日に集まって人数を多くして部活動ができないかとか、そういうところで実施はしていますが、なかなか平日までとなると、中学校の授業が終わるのが午後4時ぐらいで、そこから集まるとなると、移動など難しい部分があるのが正直なところです。ただ、教育委員会は、そのような声があるということは十分に認識しておりますので、何とかできないかという検討は進めているところです。その中で、例えば休日や

学校が早く終わる時に別の学校に行って参加したいといった要望等があれば、協議をしながら進めていきたいと考えております。ただ、正直難しい面があるというのはその通りです。

【参加者】

1点、的外れな質問かもしれませんが、資料の最後のページに児童生徒の推移が掲載されておりますが、中学校の生徒数について、釜石東中学校が令和17年から令和18年にかけて10名も増えていますが、ほかの学校は全て減少傾向にある中で釜石東中だけ増えています。単純に考えれば、鵜住居小と栗林小と連動しているのではないかなと思います。それ以外に何か理由があって増えているのでしょうか。

【教育委員会事務局】

こちらの推計値ですが、過去数年にわたって各学校ごとに減少率を計算した上で、出生数から算出した数字になります。

鵜住居地区につきましては、昨年と一昨年に出生数が例年に比べて多いという状況が続きました。出生数が多い時期があったということが影響しているのご理解いただければと思います。

【参加者】

今日、正式に令和9年度に栗林小が統合する案が示されたと解釈してよろしいですか。

9年度という話は、いつ頃議会にかけたりとか、正式に決まってこれで動いていくというスケジュールを簡単でいいですから、示してもらえれば助かります。

もう1つは、学校統合準備委員会(仮称)とありますが、栗林小の場合は、統合後の校舎の利活用について体育館は防災上使いますというお話がありましたので、役所としての利活用方法が決まったら示していただいて、統合が決まったら、跡地利用について、地区の方やいろいろな方々と意見交換する場を作っていただいて、町内会も一緒にやりたいと思いますので、なるべくいろんな機会を作ってもらいたいです。これは要望になりますので、よろしくをお願いします。

【教育委員会事務局】

最初に、この計画が決まるまでのスケジュールについて。今月に入り市内9か所で地域説明会を開始しており、8月上旬には市議会議員全員協議会説明します。併せて8月1日から1か月、パブリックコメントを実施し、計画自体に対するご意見、ご質問等を受け付けます。ご意見、ご質問を1か月ぐらいで取りまとめて修正した計画は、最終的には教育委員会議決を経た時点で基本計画の成案となります。もちろん、成案になりましたら改めて広報やホームページ等で皆様にお知らせしたいと思います。成案になった時点で、早急に統合の対象校それぞれに統合準備委員会を立ち上げて、具体的な準備について話し合いた

いと考えております。

公共施設の利活用については、ぜひ、地域の皆様とどういった位置付けで、どういった活用が望ましいのかを話し合いたいと思います。

廃校になった校舎は何が違うかという、今であれば先生方や用務員さんが常駐して維持管理に努めていただいていると思いますが、人が単純にいなくなる。施設の維持そのものもですし、利活用となると管理・運営の部分で人・ものを含めて必要になってきます。その辺りも地域の皆様と話し合いを重ねながら見い出していきたいと思っています。

【高橋教育長】

この計画を策定するにあたり、「何年度に統合」という教育委員会の考えを示したほうが議論ができるのではないかとということで、今回、栗林小は令和9年度に統合と示させていただきました。9年度に栗林小に入学する児童が2名、10年度はゼロの予定ということで、子どもたちのことを考えると、できるだけ早く統合して、多い人数の中で生活する方が良いのではないかとことを保護者の皆様とも話をしました。ちょっと早いと感じる方々もいらっしゃると思いますが、そういったことも踏まえて、教育委員会として9年度という方向性を示したところです。これについて、これからパブリックコメント等もありますので、地域の皆さんの考えも聞きながら、教育委員会で検討して、最終的にはおそらく9月になるかと思いますが、教育委員会議で議決をして、正式に計画策定という運びにしたいと考えています。

【市長部局】

統合後の跡地や建物の利用について若干触れさせていただきたいと思います。

学校の統廃合というのは、釜石にとって一大事でございます。これまで教育委員会で地域やPTAに説明をしておりましたが、今回、市長部局の者も同席させていただいて、皆さんの考えなどを聞いて、今後のいろんな検討材料にしたいと思っているところでございます。

今年度、庁内に統合準備庁内検討委員会を立ち上げてございます。定期的に進捗管理しながら、各部局で統合後の施設の活用方法をいろいろと検討する体制をとっておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【教育委員会事務局】

そろそろお時間となりますので、このあたりで終了させていただきたいと思います。たくさんのご提言、ご質問、ありがとうございました。

【高橋教育長】

(あいさつ)

(6) 閉会